

学内外の協働で育む学生の財産

学校名 山梨学院短期大学

発表者 羽畑 祐吾

1 はじめに

本事業では、ディプロマ・ポリシーを3つの要素「専門的知識Professional Knowledge」「専門的実践力Professional Performance」「総合的人間力Total Abilities」で捉え直し、「学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組み」、「学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組み」を開発・整備し、これらをいかして、「学生の主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善」を図った。これらの取組を、短期大学での学びが卒業生の「財産」となることを願ってPROPERTIES（3つの要素の英語表記から一部をとったもの）と呼び、「卒業時における質保証」の強化を目指した。

2 取組の成果

(1) 学修成果（ディプロマ・ポリシー）を3要素で概念化

ディプロマ・ポリシーを、3つの要素「専門的知識」「専門的実践力」「総合的人間力」で概念化したことにより、「学外と共有しうる明確な評価視点」を設定できた。これは、卒業時に学生に確実に身に付けさせたい力が何であるかについて、社会に、明確かつ簡潔に発信することにつながった。

(2) 学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組みづくり

3つの要素「専門的知識」「専門的実践力」「総合的人間力」それぞれについて、内部評価と外部評価（「専門的知識外部試験」「専門的実践力外部試験」「ボランティア・パスポート」）の仕組みを整えた。外部評価を通して、学生・教職員ともに、学修成果を一層客観的に把握することができた。

(3) 主体的な学びの促進や学修時間の増加等、教育活動の改善

「学修支援システムPROPERTIES e-learning」の構築とタブレット端末の貸与を行った。主体的な学びを実現するためにはそれを支援するのに十分な環境が必要である。タブレット端末は、限定された教室空間から学生を開放するためのツールとなった。本事業を通して授業外学修時間が増加したことも、自ら学ぶ姿勢の定着を表していると考えられる。

(4) 学修成果を目に見える形で社会に提示していく仕組みづくり

「学修成果レーダーチャート（学修成果証明書）」の開発を行い、2年間の学修成果を社会に提示する仕組みを整えた。「学修成果レーダーチャート（学修成果証明書）」を受け取った就職先からは「当該学生が短大2年間で学んだ学修成果の情報を客観的に得られた」「採用してからの資質向上のアドバイスを行うときなどにも参考にしている」等の意見をもらった。学生にとっても、自身が2年間でどのような学修を行ったのか、学びを実感できる資料となった。

3 まとめ

食物栄養科、保育科からなる本学は、栄養士、製菓衛生師、保育士、幼稚園教諭等、「食と健康」「教育と児童福祉」の分野で「社会に貢献する」専門職の養成に努め、その充実のため数多くの教育改革に取り組んできた。本事業もそうした教育改革の一環として位置づくものであり、とりわけ、PROPERTIESは「卒業時における質保証」を重視し、学外助言評価委員会の協力を得ながら、「専門職として真に社会に貢献しうる力を卒業時に学生が確実に身に付ける」ことを目指した。教育の中身や学生の学修成果をありのままに社会に提示し助言・評価を受けることは、勇気のいることであつたが、学生も教職員も自信や励ましを得るとともに、指摘された課題の克服に向けて向上心を一層強くすることができた。今後も本学は社会と密接につながり、よりよい教育の実現を目指していきたい。

